



座談会

経営労働委員会の取り組み 委員会と「経営指針を創る会」の活動について、 その全体像と抱える課題、今後の展望を語る。

【出席】

経営労働委員会 副委員長
川村 和史氏
㈱ママス／代表取締役
(高松第4支部)

経営労働委員会 副委員長
松本 武明氏
㈱ケアサポート幸樹／代表取締役
(高松第7支部)

経営労働委員会 委員長
竹内 淳一氏
日新モータース(有)／代表取締役
(中讃第2支部)

【司会】

広報・情報化委員会
三好 幸司氏
㈱三好製作所／代表取締役
(高松第4支部)

「経営指針を創る会」受講後に変わったことは

司会 経営労働委員会の活動について竹内委員長を始め、川村、松本両委員からお話を伺いますが、その前に簡単に自己紹介をお願いします。

松本 同友会入会は会社設立と同時に今年で10年目に。会社も同じく10期目。「経営指針を創る会」(以下、創る会)は2019年に受講。それ以降経営労働委員会に所属し、現在副委員長です。

川村 同友会歴9年目。15期で「創る会」を受講。2021年から経営労働委員会に参加しています。

司会 ありがとうございます。委員長はじめ皆さん共に「創る会」を受講された後、経営労働委員会に深く関わってきているという流れのようですが、「創る会」に参加された感想というか、

体験されて感じたことなど聞かせてください。

竹内 良かった点はたくさんありますが、それまでは社員と仲良く仕事ができていると自分で充分だと思っていたところがあつて、社員の成長まで考えが及びませんでした。これが一番の気づきです。そこから始まって職場環境の改善に取り組むようになり、少しずつ会社が良くなってきました。

松本 会社設立4年目の受講でしたが、それまでは売上げもそんなに悪くなく、数字も悪くなかったのですが、まあこんなものかと思っていたのですが、「創る会」に参加して経営者としての根本を全く理解していないことを教えられました。何となく経営者らしいことをしているだけで、目先の仕事に追われる日々で、たまたま売上げが付いて来

ていただけのことだったわけです。

「創る会」で学んだのは、経営理念から落とし込んでいって、経営方針、経営計画までをしっかりと立て、それに向かって経営者と社員が一丸になって進むことの大切さです。指針書ができたことで雇用もできました。

ですから、私は「創る会」受講が経営者としてのスタートラインになったと受け止めていますし、そこが私のターニングポイントだったと思っています。

川村 「創る会」を受講して一番良かったことは、「創る会」の中でも常に問われるのですが、何のために経営をしているのかについて真剣に向き合ったことです。

それまで仕事にプライドと誇りを持って取り組んでいたつもりだったのですが、私自身の仕事振りに一貫性

がないことや、それぞれの仕事に対して経営者としての姿勢や想い、いわゆる何のために経営をしているのかについて真面目から向き合うことがなかったので、受講したことで経営者としての自覚が芽生えたことが一番大きな出来事でした。

竹内 生まれた時から祖父や父が自営業で車屋をしていたので、車があるのは当たり前前でした。当たり前すぎて、自分自身、車が好きだということをしつかり忘れてしまっていました。「創る会」の受講で自分は本当に車が好きなんだと改めて気付かされました。

経営指針書の作成とその

実践が「創る会」の目的

司会 「創る会」はどう

いうところなのか、代
表して竹内さん説明をお願いします。

竹内 経営方針書は、同友会だけでなく他の団体でも作成していますが、香川同友会の経営指針書は、経営理念、10年ビジョン、経営方針、経営計画から成り立っているのが特徴です。

また、経営者が自分は何のために経営をするのかを自問しながら、社員のことやお客様、地域のことを考えていくという経営者の思いを重視しているのも特徴だと思えます。

とにかく否応なく経営者としての自分自身にとことん向き合うというか、向き合われる時間の連続でしたが、それが経営者の経営

姿勢の確立に繋がっていくのだと思います。

司会 「創る会」は今年で発足20年になりますが、その間にずいぶん進化したと思います。独自のカリキュラムや他県との相違などがあれば聞かせてください。

竹内 まずカリキュラムですが、13期から大きく変わっています。心情というのが課題で追加されました。自分の生い立ちから現在まで、心の変化する出来事



竹内淳一氏

があつたことを書いてもらうことで、自分の大切にしている価値観などに気付いてもらいます。

心情の課題ができたことで、受講生の価値観・人生観をパートナーが導きやすくなったと思います。また、心情があるのは、全国でも香川だけなので、香川同友会の創る会の特徴でもあります。

また、受講生は2年で1セットとなっております。これは、受講生として学ぶこと、それと、パートナーとして受講生の面倒をみるというか、助言をすることで異なる学びがあるからです。受講生のときは目の前の指針書創りが目的になってしまうのですが、それを実践するのが本来の目的なので、2年目のパートナーになって初めてその目的に近づくのではないかと考えています。

川村 私はこの20年の取り

組みが一番の財産ではないかと受け止めているので、これから「創る会」受講を考えておられる会員さんは、その年月が培ってきたものを信頼していただいて大丈夫だと思います。

委員会の取り組みは？

司会 ここまで「創る会」についてお話しをお聞きしましたが、他の取り組みについてもお聞きしたいと思います。

松本 委員会主体で取り組んでいるのが「企業変革支援プログラムVer2」です。これは経営者の皆さんが自社

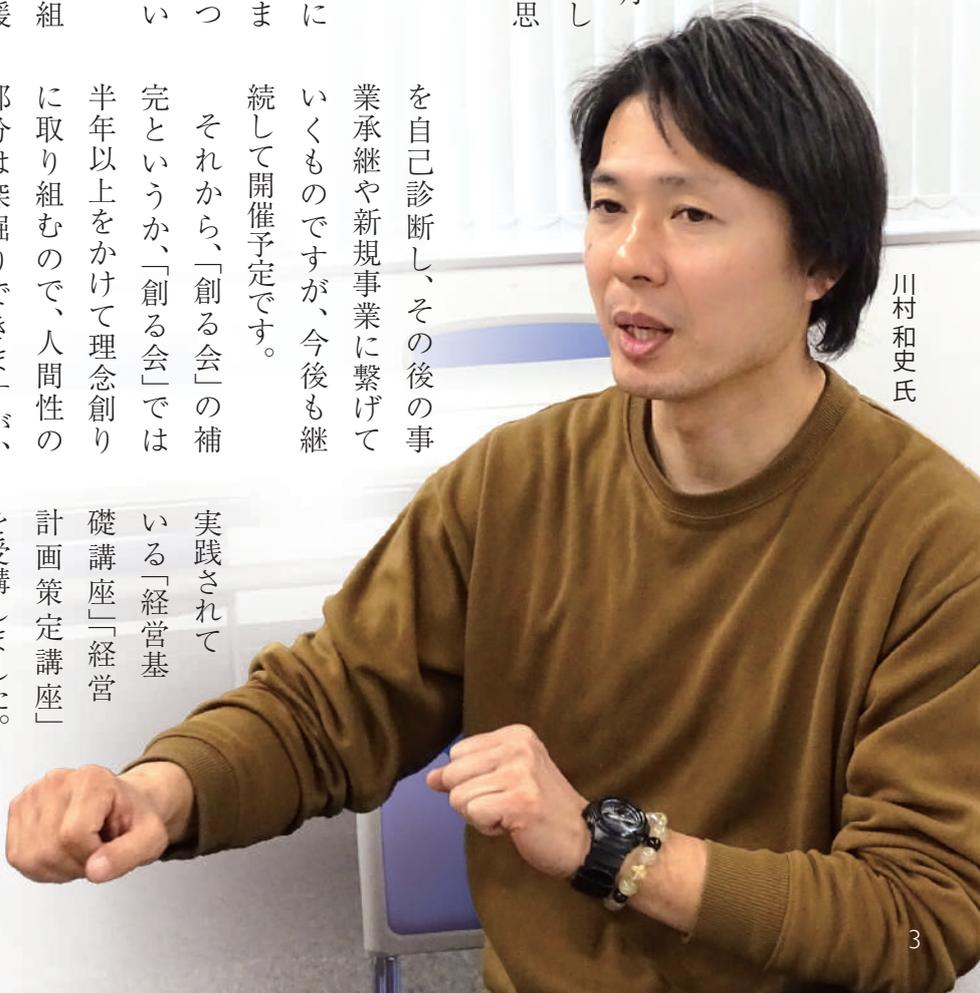
川村和史氏

を自己診断し、その後の事業承継や新規事業に繋げていくものですが、今後も継続して開催予定です。

それから、「創る会」の補完というか、「創る会」では半年以上をかけて理念創りに取り組むので、人間性の部分は深掘りできませんが、いわゆる数字の部分、戦略の部分に時間をかけられないという事情があり、経営指針書の中に経営方針、経営計画は入ってはいるのですが、根拠のある数字が出ていないのが現状です。そこを補う必要があるのではないかと、宮城同友会で

実践されている「経営基礎講座」「経営計画策定講座」を受講しました。

前記は経営者として数字はわかっていますか？の問いかけの中から、未来会計、管理会計のほうに主眼を置いた講座で、それを今、落とし込もうとしています。後記のほうは、自社事業の分析やアンゾフ分析等を使い



ながら、またパートナーの方から助言をもらいながら、自社の次の一手を見つけて、それを計画まで落とし込んでいくことを、香川流にアレンジして来期から本格始動をと考えています。

竹内 簡単に言うと、数字と儲けの部分の強化です。経営計画をきちんと実践できるように、財務会計で現状分析、管理会計で今後必要になる粗利から計画を立て、その数字目標のために、どのように儲けていくかを考えてもらいます。儲けの勉強会は、「事業計画策定講座」で、「経営基礎講座」が会計の勉強会になります。

**人を生かす4委員会の連携
司会** 他の委員会との連携が最近の傾向としてあるようですが、その点についてはどうですか。

松本 経営労働委員会をは



じめ、社員教育委員会、共同求人委員会、多様性委員会、各々が個別に活動をしていましたが、どの委員会も原点にある人間尊重経営を意識して活動をしているので、その点を重視して、香川同友会では4つの委員会が集まって合同で人を生かす4委員会として活動を行いながら、それぞれの委員会の強みを出す活動になっています。

結局は人間尊重経営なので、例えば求人のために「共同求人」活動に参加すると、そこで自社のことを振り返ることになり、経営理念や経営指針書の必要性に気づけば経

営労働委員会に入ればいいし、社員のことで悩んでいれば、社員教育委員会があり、多様性委員会であるんな考え方を学ぶというふうな活動です。

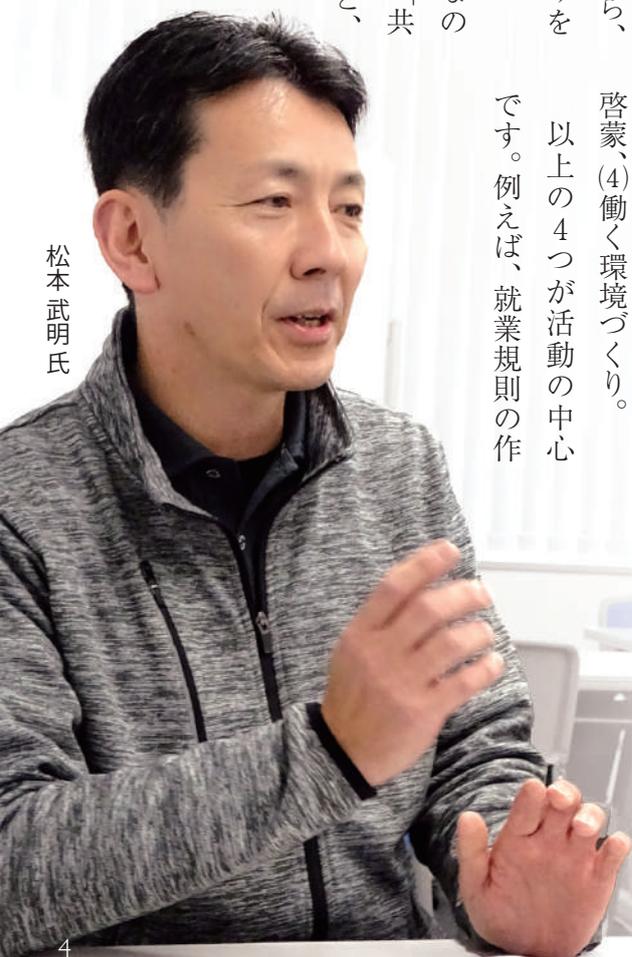
司会 今後、4つの委員会を横断する活動はますます活発になりそうですが、これまでのお話しの他に取り組みがあれば聞かせてください。

松本 経営労働委員会は、(1)企業変革支援プログラムベンジの普及、(2)人を生かす4委員会活動、(3)経営理念の啓蒙、(4)働く環境づくり。以上の4つが活動の中心です。例えば、就業規則の作

成や職場環境そのものなどを含めた勉強会を開催しています。

竹内 会員の皆さんには経営労働委員会に限らず、委員会活動に参加していただきたいと思っています。委員会活動をされている経営者はそれなりに活躍しているので、学べるものが多くあると思います。参加し続けていると「労使見解」の理解度が自ずと深まります。

また、「創る会」では、人や社員を大切にして、経営者の経営姿勢を確立させるこ



松本武明氏

とが、「創る会」の本筋だと受け止めています。

司会 ありがとうございます。では最後に今の経営労働委員会が持っている課題と今後の展望について聞かせてください。

松本 「創る会」の次期実行委員長としてお話しさせていただきます。来期は20期になります。「創る会」や「未来塾」の受講者を増やすために勤めていきたいと思っています。

竹内 私が委員長になった4年前と比べると大分変わりました。その間に大きく変わったのは経営労働委員会と「創る会」を分離したこととです。これによってぜひん参加しやすくなり、委員会活動も充実したと思っています。

川村 先日開催の中同協の経営労働委員会に参加したのですが、そのときに委員会の方

針として、それまでの経営指針の成文化と実践について、成文化と実践から確立へという文言が追加されました。

香川県でも「創る会」の受講者が少しずつ増えてきていますが、現状は成文化や、実践をしている経営者はいますが、それが実績として表れて会社だけでなく、取引先を含めた地域をよくしている会社はどれぐらいあるのか。企業づくり、地域づくり、同友会づくりの部分の大切さを強く感じたので、この学びを委員会の活動を通じて企業や地域からも求められる組織団体になればと感じているので、今後はそういうところに努力していきたいと思っています。

竹内 私も同感です。委員会の存在意義について最近、よく問われることがあります。ですが、この委員会

は経営者が経営姿勢を学ぶ委員会という根本を変えてはならないと思っています。

松本 経営者としての姿勢を「創る会」でたくさん学びましたし、私自身もずいぶん変わることができたので、ぜひ受講して、よりよい経営者になっていただきたいと思っています。

竹内 そうですね。相手は自分とは異なることを認め、共に学び合うことが大事だと思います。

川村 来期は「労使見解」50周年で、「青年経営者全国交流会」が香川で開催されます。ですから、経営労働委員

会の活動を通じながら委員として50周年を迎えたいと思っています。

司会 「経営労働委員会」のこれまでの貢献度にはとても大きなものがあると受け止めているので、これからもその歩みを止めることなく活動を続けていただきたいと思っています。ありがとうございます。



三好幸司氏